

土地利用型作物の経営安定と担い手の育成

成果の要約

- 1 水田高度利用に向け、大規模経営体が栽培技術改善に取組み、加工用ばれいしょでは被覆栽培による増収、ブロッコリーでは健全苗確保による生産安定が図られた。
- 2 水田におけるスマート農業最新技術に対する理解が進んだ。経営体においてはスマート農業技術の導入が見られた。
- 3 新品種「こないしん」の導入がすすんだ。

1 対象

- (1) 水田地域担い手農家 185 戸
- (2) 水田高度利用農家 185 戸
- (3) 東干拓土地利用営農研究会 13 戸
- (4) かんしょ部会 377 戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 稲作経営における米価の下落や農業従事者の高齢化が進み、担い手農家等を中心に経営への不安が高まっている。
- (2) 稲作経営の安定化のため、地域の実情にあった新たな営農体系の導入を行う必要がある。
- (3) 新しい米施策を利用した非主食用米生産技術の確立・普及を行う必要がある。
- (4) 管内における原料用さつまいもの生産量確保が望まれており、単収向上技術の確立・普及を行う必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) 担い手農家の育成
 - ア 担い手農家への水田面積集積
人・農地プラン策定と連携した活動を行うため、関係機関と推進体制について検討した。
 - イ 米の品質向上支援
普通期水稻の課題整理を行った。等級格下げ要因は未熟粒で品種の課題が大きい。
- (2) 水田における戦略作物と高収益作物の振興
 - ア 水田における高収益作物の栽培面積拡大

2 法人に対し、加工用ばれいしょ、ブロッコリーの実証ほ実績・計画等検討し、実施支援した。また、ブロッコリー育苗等支援した。

その結果、加工用ばれいしょでの被覆栽培による増収やブロッコリーの健全苗確保による生産安定が図られた。

生産技術実証の計画実践や育苗技術の習得等できたことで、取り組みへの意欲がさらに出てきた。

イ 多収品種導入、栽培指導による飼料用米の単収向上

早期水稻では飼料用米品種「くいつき」の導入が進み、玄米単収の向上が期待される。

(3) 地域特性に合致した水稻モデル経営体の育成

ア 生産労力効率化に向けたスマート農業導入支援

リモートセンシングによる生育診断とそれに基づく可変施肥技術の実証を実施。収穫時は収量コンバインによる収量のマッピングも実施。ドローン導入による雑草防除、病害虫防除体系について課題整理した。



写真1 ドローンによる豆粒剤散布

イ ツルマチ米のブランド力向上支援

K-GAP 認証取得支援，良食味米の実証ほを設置した。実証の結果，窒素施肥量を減らすことで，収量を確保しつつ玄米中タンパク含量を低減させることができた。



写真2 ツルマチ米玄米調査

(4) さつまいも栽培の生産安定

ア 省力採苗技術の導入支援

一斉採苗技術は昨年青年農業者会議で紹介したところ，新規に取り組んでみたいという農業青年など6戸の農家が導入した。

シロユタカは省力化につながるため，農家の評価は高かった。こないしんは採苗本数が少なく，育苗方法の再検討が必要である。

イ 新品種「こないしん」の導入検討

新品種「こないしん」の実証ほを設置した。

収量調査の結果ではシロユタカ並の収量であったが，生産者からは増収したという声があった。こないしんは12戸の農家が導入した。

ウ サツマイモ基腐病

管内で基腐病の発病ほ場が確認されたため，関係機関，焼酎メーカーに対し防除対策研修会やでん粉原料用さつまいも生産者に基腐病の周知と防除対策に関する座談会などを開催した。



写真3 サツマイモ基腐病(長島町)



写真4 サツマイモ基腐病防除研修会

4 今後の課題

- (1) 人・農地プランと連携した話し合い活動の実施
- (2) スマート農業技術による防除体系の検討
- (3) こないしんの育苗方法の検討
- (4) サツマイモ基腐病被害軽減対策